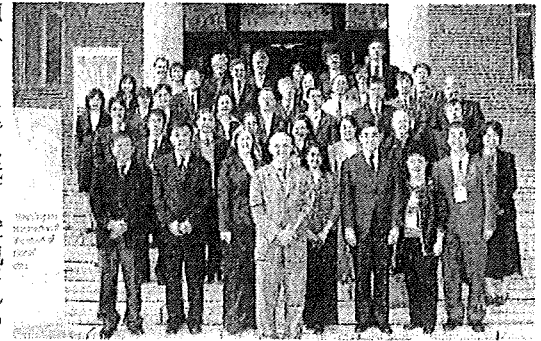


# WHO—ICTM 会議開催

伝統医学の国際標準作成に立ち会う



北里講堂前での集合写真

類（ICTM）を盛り込  
むための会議が行われ  
た。会議は本プロジェクト  
の共同議長渡辺賢治漢  
方医学センター長（63  
回）のもと行われ、連  
日、伝統医学の世界標準  
作成のための議論が重ね  
られた。東アジア地域の  
生薬療法や鍼灸は、欧米  
を含む世界各国に幅広く  
普及している。わが国の  
伝統医学である漢方は、  
臨床医の約8割が日常診  
療で用いているにも関わ  
らず、明確な診断分類が  
定められていない。ま  
た、中国や韓国では伝統  
医学に対する独自の診断  
分類が既に構築されてい  
るものの、国際的な分類  
は確立されていなかった。  
これを受けてWHO  
は、2015年に改訂さ  
れるICD-11にICTM  
を組み込むため、伝統  
医学における診断と医療  
行為の標準用語、標準分  
類を作成するプロジェク  
トを立ち上げた。12月6  
日はフォーリンプレスセ  
ンターにおいてジュネー  
ブと同時発信の記者会見  
を行った。

「現されること  
は歴史的な快挙だ」と発  
言した。WHO事務局長  
であるMargaret Chan氏  
も「伝統医学と西洋医学  
は対立するものではな  
く、相互に補完すべきも  
のである」と発言してお  
り、今後、国際的に伝統  
医学の重要性が再認識さ  
れることが期待される。

となるため、  
疾患同士の関  
連付けが強固  
な、コンテン  
ツモデルの構  
築が注目され  
る。渡辺賢治  
共同議長は  
「1900年  
から西洋医学  
のみで統いて  
きたICDの  
歴史に日本の  
漢方をはじめ  
とした伝統医  
学の導入が実

平成22年12月7日から  
10日にかけて、本塾信濃  
町キャンパスにおいてW  
HOの国際疾病分類（I  
CD）に伝統医学国際分

みならず、厚生労働省に  
おける事前ミーティング  
や、漢方医学センター、  
厚生労働省、WHO間で  
のやり取りに参加させて  
いただいた。会議参加者  
の厚生労働省会議室での  
表敬訪問、国際記者会  
員、政府関係者や伝統医  
学の著名人を招いたレセ  
プションでは、本塾の多  
数の学生が音楽の演奏、  
受付、誘導、クロークな  
どを担当した。12月7日  
から9日にかけて北里講  
堂にて、10日は慶應義塾  
大病院新棟11階にてW  
HO職員4名、厚生労働  
省6名ならびに6カ国の  
代表からなる総勢約30名  
の国際会議が行われ、こ  
こでも本塾の多数の学生

が、会場整理や案内、さ  
らには開会式の逐次通訳  
などを任された。会議後  
には、WHO・厚生労働  
省・各国代表の方々か  
ら、「慶應の学生達はし  
っかり仕事をこなしてい  
て雰囲気も良い」という  
有難い言葉をいただいた。

私は、本会議を通じ  
て、国際舞台における語  
学力、人間力、ホスピタ  
リティーの重要性を強く  
認識することができた。  
また、WHO職員、各国  
の代表者の方々と直接、  
生で話し合えたことは、  
私たち学生にとって、今  
後の医学部生活に影響を

与えるほどのインパクト  
を持った貴重な体験であ  
った。  
最後になりましたが、  
一緒に会議の運営を手伝  
ってくれた学生の方々、  
学生を温かく見守って下

さったWHO・厚生労働  
省・各国代表の方々、こ  
のよきな機会を与えて下  
された渡辺賢治共同議長  
に、この場を借りてお礼  
申し上げます。  
（5年 中山直彦）

ICD-11は従来の紙  
媒体ではなく、ウェブペ  
ージで電子化された情報

ICD-11は従来の紙  
媒体ではなく、ウェブペ  
ージで電子化された情報